ずいそう

# 初めての単身赴任―新潟での生活―

宇田川　一　夫

新潟に赴任し，早いもので6年が経ちました。初めて東京を離れ，単身赴任生活を経験しましたが，その中で感じた事などをお話ししたいと思います。

新潟での単身赴任生活は2008年4月に始まりました。東京駅から上越新幹線に乗り，大清水トンネルを抜けた越後湯沢駅は大変な積雪（まさに小説「雪国」の世界！）だったのですが，長岡駅を過ぎると徐々に雪が減り，全く雪のない新潟駅に到着すると，肩すかしをくった気分を味わいました。

赴任直後は，新潟の歴史や文化に触れ合うべく，新潟にゆかりのある地の散策に勤しみました。生まれ育った東京は高層ビルが多く，ビルのすき間から見える空が狭いのですが，広大な越後平野は頭上一面に空が広がり，ゆったりした気分にさせてくれます。守門岳に代表される越後山脈の壮大な山並みを眺めていると，仕事上の悩みでさえも些末な事に感じられ，心が洗われます。新緑が芽吹いた初夏，紅く色づいた晩秋，雪化粧を施された冬，1年を通して様々な表情が楽しめます。

新潟での初めての冬，首都圏と違って雪が降っても交通がマヒしない事，雪掻きの大変さ（筋肉痛で体中パンパンになりました），雪道運転の怖さ（轍の出来た雪道での車線変更や地吹雪は今でも本当に怖いです），などに驚かされました。

趣味のゴルフは，ゴルフ場までのアクセスの良さ，東京に比べ料金が安い事もあり，自ずと楽しむ回数が増え，新潟に来て初めてハンディキャップを取りました。

新潟は「米・酒・魚が旨い」と言われる事が多いのですが，本当にその通りだと思います。個人的には，日本酒は「〆張鶴」と「八海山」，魚は「のどぐろ」が好きなので，県外からのお客さまにもお奨めしています。

今思い起こしますと，新潟とは不思議な縁がありました。営業マンになって間もない20代の頃，レンタル業を営むお客様より，「新潟までレンタル代の回収に行ってくれたら機械を買ってやる」と言われ，柏崎まで車で来た事があります。当時関越自動車道はまだ開通しておらず，国道17号をひたすら走り柏崎へ向かいました。新潟県に入り，除雪こそされているものの，初めて目にした道路脇の雪壁に圧倒され，一人雪道の運転が心細かった事が思い出されます。

私の会社員生活は1973年4月，小松製作所入社と共に始まり，新潟に赴任した2008年4月までの30年余り，東京地区での営業畑でありました。当時は日本の安定した成長期を背景に右肩上がりで成長していた建設業界も「生き馬の目を抜く」と例えられる程，債券管理面が厳しい時代でもありましたが，1台も機械をロストする事なくやって来られました。運が良かった事もありますが，お客様との繋がりを大事にして来た結果でもあると自負しております。

また職場や立場が変わる度，最悪の状況からのスタートの連続でもありました。バブル景気が終わって間もない1993年，初めて支店長となり城東支店を任され，公共事業が縮小された2003年，東京統括部長として東京全域を任され，中越・中越沖地震の復興特需が終わった2008年，コマツ新潟（現：関越カンパニー）社長として新潟に赴任，「どうやって業績を上げて行こうか」と頭を悩ませながら新しい職場での業務に勤しみました。そのためか今でも「右肩上がりの業績」を常に意識して仕事に取り組んでいます。

まだ20代だった頃，厳しい上司のもと，土日・休日も働き，先輩に飲みに連れて行って貰った翌朝は誰よりも早く出社し（「飲んだ翌日こそ早く来い」との教えを忠実に守り），早朝まで働き子供の寝顔を見たらまた出社等，大変な事も多かったのですが，今では懐かしい思い出です。

最近は「コンプライアンス遵守」に始まり，「0災害」，「無事故」，「健康管理の徹底」，「職場環境の整備」への取組みが当たり前になり，良い会社，働きやすい環境になったと感じますし，私自身も休みを取らない部下に「もっと休みを取れ！」と口うるさく言う事も珍しくありません。もっとも建設機械もハイブリッド機の普及が進んでいる近年の状況を考えれば，当然の事なのかも知れません。

思いつくまま新潟での生活について書きましたが，今後も新潟で出会った人達との繋がりを大切にし，単身赴任ライフを楽しんで行きたいと考えています。

――うだがわ　かずお　コマツ建機販売㈱関越カンパニー　社長――